

2023年1月5日

都道府県加盟組織 御中

一般社団法人 全国腎臓病協議会
災害対策本部長 池田 充
災害対策委員長 玉置 幸利

令和6年能登半島地震について（報告）

1月1日夕方に発生した能登地方を震源とする地震を受け、全腎協は同日夕方18時過ぎ、事務局に「災害対策本部」を設置し、業務執行役員および災害対策委員らでグループラインを立ち上げるなど、被害状況について情報収集を開始しました。

被害の大きかった能登地方では今もなお現地の透析施設は復旧しておらず、そこに通う透析患者は石川県内・外の透析施設において短時間透析を受けながらも透析は確保されているとのこと。改めて、これまでの主だった情報を時間の経過とともに下記へご報告します。

- 1月1日（月）21時：中村石川県腎友会事務局長より
羽咋市、七尾市、輪島市、珠洲市の透析施設が停電の為、補助電源にて透析予定。停電が復旧しない場合、3日が限度。金沢市の一部も液状化や道路の隆起や沈降被害あり。
- 1月2日（火）12時：玉置災害対策委員長より
山本石川県腎友会会長より能登の透析患者の情報連絡を頂いた。能登の6病院は停電と断水で透析が出来ず、6病院で透析患者が350人、その内71人が福井県の藤田病院、福井医科大学付属病院へヘリで搬送され、残り一部の方は富山県の透析施設へ臨時透析を依頼、200人は金沢市内のいくつかの透析施設に振り分けされたとのこと。
- 1月4日（木）18時30分：厚生労働省より
(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37198.html)
石川県透析医療機関の総数 43 医療機関のうち透析ができない医療機関：6 施設
上記に通院する透析患者数：264人（最大360人）
透析を受けることができない患者への対応：1月4日に透析を予定していた患者は石川県内の医療機関での受入調整完了。現在、搬送手段について DMAT が調整中

このほか、富山県や新潟県においても透析時間が一時短縮され、今もなお続く余震の揺れの影響で、酔ったようで調子がよくないといった声なども寄せられています。全腎協では、引き続き被災状況について情報を集めるとともに、今後の具体的対応については、理事会等において協議していく予定です。

被害に遭われました会員はじめご家族の皆様には心よりお見舞い申し上げます。
いまだ大きな余震が続くなか停電に断水と心休むことのない生活を強いられている皆さまに、一日でも早く復興され普段の生活に戻れることを祈念いたします。